

第6章 人的要因別火災状況

1 高齢者

- 高齢者が行為者となった火災による死者が前年よりも6人増加しました。

(1) 火災状況

ここでいう「高齢者の火災」とは、65歳以上の高齢者が行為者となった火災をいいます。

令和元年10月1日現在、全国の65歳以上の高齢者の人口は、推計で前年同月よりも30万7千人多い3,588万5千人で、日本総人口の28.4%を占めています。

また、令和2年1月1日現在、東京都内に住む高齢者は、東京都の総人口の22.6%にあたる312万2千人となっています（総務省・東京都調べ）。

ア 年別火災状況

最近10年間の高齢者の火災の発生状況をみたものが表6-1-1、年別火災状況と高齢者の火災の割合をみたものが図6-1-1です。

表 6-1-1 年別火災状況（最近10年間）

年 別	火災の種類										損害状況				
	合 計	建物					林 野	車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
22年	426	380	30	22	91	237	1	11	-	34	4,486	1,118	825,327	33	181
23年	494	429	27	24	86	292	1	16	-	48	4,853	1,536	638,523	27	227
24年	497	459	22	33	97	307	-	5	-	33	5,020	1,401	578,786	43	196
25年	511	450	27	20	82	321	2	16	-	43	4,314	1,387	925,063	45	191
26年	570	496	25	24	92	355	1	22	-	51	5,017	1,687	815,659	56	224
27年	508	453	23	24	81	325	-	12	-	43	4,254	1,530	618,056	38	185
28年	482	434	18	22	76	318	-	19	-	29	3,744	1,205	582,696	36	243
29年	568	511	26	25	97	363	-	15	-	42	5,379	1,746	1,064,526	35	208
30年	557	484	17	27	107	333	1	22	1	49	5,623	1,577	1,035,636	44	201
元年	536	479	23	22	96	338	-	19	-	38	4,519	1,516	791,417	50	192

- 令和元年は536件発生し、前年と比べて21件減少。
○ 火災による死傷者をみると、死者が50人（前年比6人増加）発生し、負傷者は192人（同年比9人減少）発生。

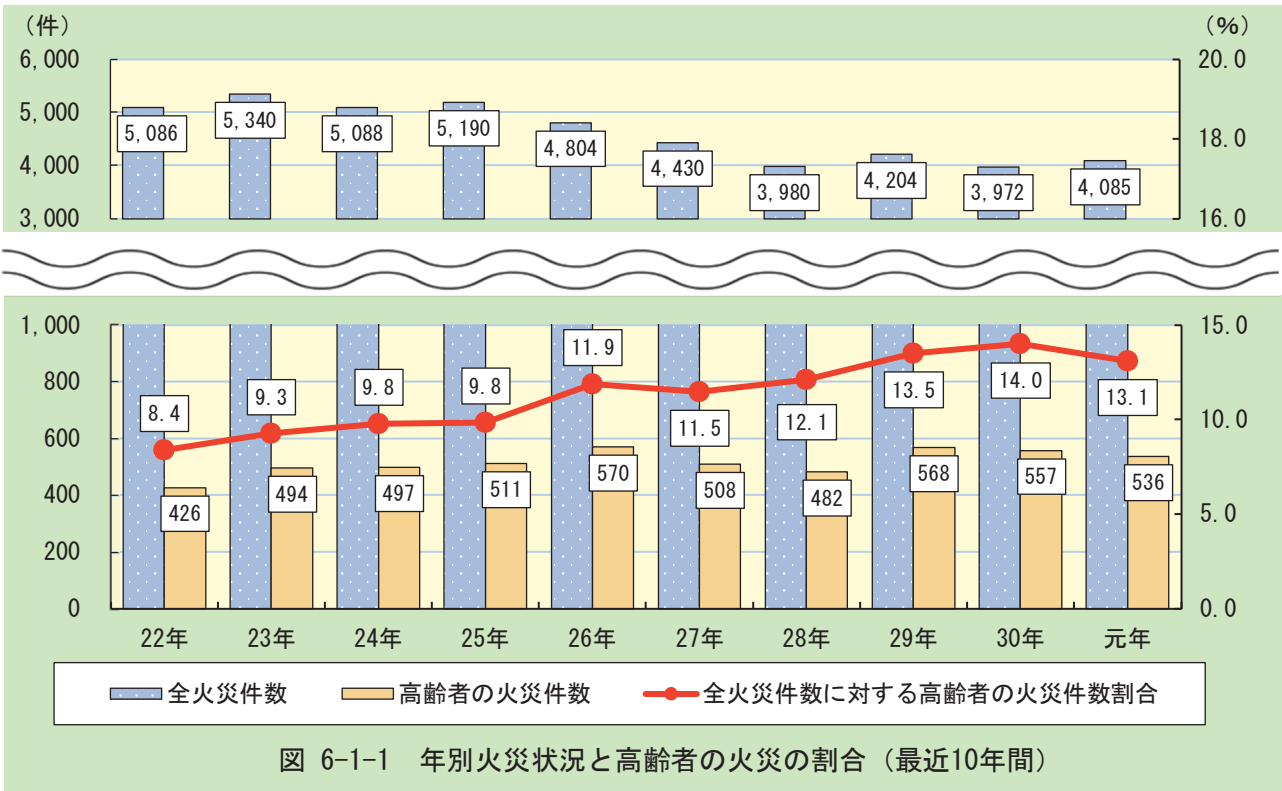


図 6-1-1 年別火災状況と高齢者の火災の割合（最近10年間）

○ 高齢者の火災件数は536件（前年比21件減少）発生し、全火災件数に対する高齢者の火災件数割合は13.1%（同0.9%減少）を占める。

イ 高齢者の火災の月別発生状況

高齢者の火災の月別発生状況をみたものが表6-1-2です。

表 6-1-2 高齢者の火災の月別発生状況

年齢区分	月													
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火災件数	4,085	446	381	379	382	379	274	264	312	290	267	326	385	
高齢者の火災件数	合計	536	81	42	60	61	42	29	26	30	38	23	49	55
	前期	243	35	21	28	24	19	13	15	12	18	10	24	24
	後期	293	46	21	32	37	23	16	11	18	20	13	25	31
発生率 (%)	13.1	18.2	11.0	15.8	16.0	11.1	10.6	9.8	9.6	13.1	8.6	15.0	14.3	

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

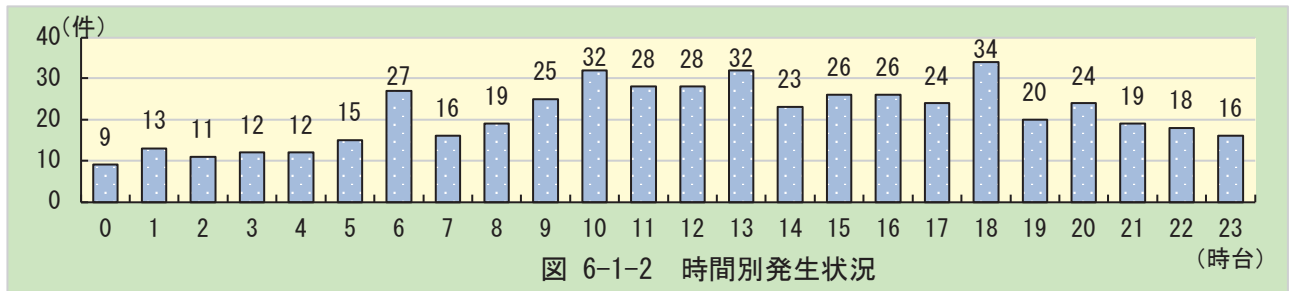
注2 発生率は、火災件数のうち高齢者の火災が占める割合を示したものです。

○ 火災の多発する時期である1月から3月と、12月で計238件（44.4%）発生し、その中でも1月は81件（15.1%）と最も多い。

○ 年齢区分別では、前期高齢者が243件（45.3%）、後期高齢者が293件（54.7%）発生。

ウ 時間別発生状況

時間別発生状況をみたものが図 6-1-2 です。



注 高齢者の火災の時間別発生状況は、出火時分が不明（27件）の火災を除いています。

- 1日を通じて最も多く発生している時間帯は18時台で34件（6.7%）発生し、次に多い発生時間帯は10時台及び13時台で各32件（6.3%）発生。

エ 建物用途別発生状況

行為者とその年齢が判明している建物から出火した火災1,719件を居住関係（住宅・共同住宅）と居住関係以外に分けたものが表 6-1-3 です。

表 6-1-3 居住用途別建物火災発生状況

区分	建物から出火した火災件数	居住関係			居住関係からの発生率 (%)	居住関係以外
		小計	住宅	共同住宅		
合計	1,719	1,133	406	727	65.9	586
高齢者以外の火災	1,246	737	208	529	59.1	509
高齢者の火災	473	396	198	198	83.7	77

注 高齢者の建物火災479件のうち建物以外から出火し建物に延焼した火災6件を除いています。

- 行為者が高齢者で建物から出火した火災473件のうち、居住関係の用途は396件（83.7%）発生し、高齢者以外の火災に比べて居住関係から発生する割合が高い。

(2) 出火原因別発生状況

高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況をみたものが表 6-1-4 です。

表 6-1-4 高齢者と高齢者以外の主な出火原因別発生状況

区分	合計	主な出火原因										
		ガステーブル等	たばこ	放火	大型ガスこんろ	電気ストーブ	ロウソク	大型ガスレンジ	たき火	溶接器	コード	その他
合計	2,021	324	304	118	101	71	37	36	33	32	30	935
高齢者以外	1,485	213	222	96	92	40	19	35	14	27	23	704
高齢者	536	111	82	22	9	31	18	1	19	5	7	231
前期高齢者	243	42	52	11	8	4	7	1	10	4	4	100
後期高齢者	293	69	30	11	1	27	11	-	9	1	3	131

注 全火災件数 4,085 件（治外法権火災及び管外からの延焼火災を除く。）のうち、行為者とその年齢が判明している火災 2,021 件の値になります。

- 行為者が高齢者である主な出火原因別の上位 3 位をみると、ガステーブル等が 111 件（20.7%）と最も多く、次いでたばこが 82 件（15.3%）、電気ストーブが 31 件（5.8%）。

(3) 発見・通報・初期消火等の状況

ア 発見・通報・初期消火状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 473 件の火災発見者及び通報者についてみたものが表 6-1-5、初期消火が行われた火災 330 件の初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態をみたものが表 6-1-6 です。

表 6-1-5 発見者及び通報者の状況

区分	合計	行為者	住戸の住居した者	近隣者	居同一建物者	所出の勤務員	通行人	関上係以外者	勤同一建物員	居同一敷地者	警同一備員	その他
発見者	473	155	115	52	51	19	18	16	10	6	3	28
通報者	473	52	72	106	69	11	43	41	13	6	6	54

表 6-1-6 初期消火従事状況と初期消火従事時の火災の状態

区分	合計	物具出 が又火 燃はし 焼着た 中火器	材立 がち 燃上 焼が 中り	物二 が次 燃的 焼着 中火	延出 焼火 拡室 大内 中が	延火 元 焼建 物 中が	状態天 が井 で達等 燃しに 焼中た火	他階 大へ 延 中焼	焼出 拡火 階が 大中延	その他・不明
合計	330	217	41	26	8	5	5	2	1	25
消火成功	237	166	26	19	1	-	2	-	-	23
消火失敗	93	51	15	7	7	5	3	2	1	2
成功率 (%)	71.8	76.5	63.4	73.1	12.5	-	40.0	-	-	92.0

注 行為者が高齢者で建物から出火した火災 473 件のうち、初期消火が行われた 330 件の値になります。

- 発見は、行為者である高齢者自身が 155 件 (32.8%) と最も多く、次いで出火した住戸の居住者が 115 件 (24.3%) など。
- 通報は、近隣者が 106 件 (22.4%) で最も多く、次いで出火した住戸の居住者が 72 件 (15.2%)、同一建物の居住者が 69 件 (14.6%) など。
- 初期消火に成功した 237 件 (71.8%) のうち、消火時の火災の状態別でみると「出火した器具又は着火物等が燃焼中」で消し止めたものが 166 件で (70.0%) と 7 割を占める。

イ 避難状況

行為者が高齢者で建物から出火した火災 473 件のうち、避難行動があったものは 95 件 (20.1%) です。このうち、避難に支障があった 10 件の支障理由をみたものが表 6-1-7 です。

表 6-1-7 避難上の支障理由

区分	合計	出火階の 直上階	出火階	死者	負傷者
合計	10	8	2	5	15
廊下が火炎で使用できず	2	1	1	/	/
老人幼児災害弱者等自力避難困難	2	2	-		
火災に気付くのが遅かった	2	2	-		
廊下に物品が置いてあった	1	1	-		
その他	3	2	1		

- 避難に支障があった 10 件 (10.5%) で、死者が 5 人、負傷者が 15 人発生。

2 工 事

- 溶接関係、電気設備機器及び工事機器関係が出火原因となった火災がいずれも前年より増加しています。
- 焼損床面積を除き、損害状況はそれぞれ前年より減少しています。

(1) 火災状況

「工事」の火災とは、工事現場、工事中の建物から出火した火災や、工事に関連して発生した火災をいいます。また、工事に関係した火源により、工事現場以外の場所から出火した火災（以下「近隣火災」という。）も含まれます。

ア 年別火災状況

工事関連火災の年別火災状況をみたものが表 6-2-1 です。

表 6-2-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	火 災 種 別									損 害 状 況				
	合 計	建 物					車 両	船 舶	そ の 他	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	損 害 額 (千円)	死 者	負 傷 者
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や								
22年	91	55	1	-	14	40	2	-	34	673	1,263	89,519	1	22
23年	110	61	-	1	23	37	2	-	47	372	1,642	147,688	-	20
24年	114	66	1	3	18	44	5	1	42	550	406	155,358	-	19
25年	136	84	3	2	23	56	4	-	48	1,193	622	449,266	1	29
26年	110	65	8	3	17	37	1	-	44	1,882	801	315,979	-	13
27年	92	54	-	2	10	42	2	-	36	483	185	136,268	3	30
28年	82	45	2	2	10	31	3	-	34	1,001	655	819,127	-	15
29年	98	58	1	1	9	47	1	-	39	359	128	95,818	-	28
30年	96	55	-	1	11	43	2	-	39	700	5,256	2,467,340	5	81
元年	102	57	-	2	15	40	2	-	43	997	342	2,274,206	3	30

- 焼損床面積は 997 m^2 で前年と比べて 297 m^2 増加し、焼損表面積は 342 m^2 で前年と比べて 4,914 m^2 減少。
- 死者は 3 人発生で前年と比べて 2 人減少、負傷者は 30 人で、前年と比べて 51 人減少。

- 建物工事の火災で作業区分別にみると、最も多いのが溶接・溶断作業で 29 件（38.2%）発生し、このうち工事種別をみると新築工事及び解体工事が各 13 件（44.8%）と最も多い。
- 設備工事の火災は 18 件（17.6%）発生し、このうち電気工事が 8 件（44.4%）で 4 割以上を占める。

イ 工事別発生状況

工事現場から出火した火災 102 件の工事種別と作業区分についてみたものが表 6-2-2、出火原因別の工事種別をみたものが表 6-2-3 です。

表 6-2-2 作業区分別の工事種別

作業区分	工事種別																
	合計	建築物工事					設備工事					土木工事				その他の工事	
		小計	新築工事	改装工事	解体工事	補修工事	小計	電気工事	配管工事	機械器具設備工事	昇降設備工事	その他の設備工事	小計	道路舗装工事	鉄道・地下鉄工事		その他の土木工事
合計	102	76	29	21	19	7	18	8	2	1	1	6	5	2	1	2	3
溶接・溶断作業	34	29	13	2	13	1	4	-	-	1	1	2	-	-	-	-	1
電気作業	16	8	2	5	-	1	8	6	-	-	-	2	-	-	-	-	-
配管作業	6	3	-	2	1	-	3	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-
床張り・壁張り作業	4	4	1	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
塗装作業	2	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
焼却作業	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アスファルト溶解	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
掘削作業	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-
その他	18	12	2	3	4	3	1	-	-	-	-	1	3	1	1	1	2
火災と作業との関係なし	16	14	9	4	1	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表 6-2-3 出火原因別の工事種別

出火原因	工事種別			
	合計	建築物工事		解体工事
		新築工事	改装工事	
合計	14	9		4
放たばこ	6	3		2
その他	3	2		1
その他	5	4		1

注 「火災と作業との関係なし」の16件のうち建築物工事から発生した火災14件をみたものになります。

ウ 出火建物の状況

工事現場から出火した火災のうち建物から出火した火災は55件で、このうち用途別出火場所についてみたものが図 6-2-1、政令用途以外の内訳をみたものが図 6-2-2 です。

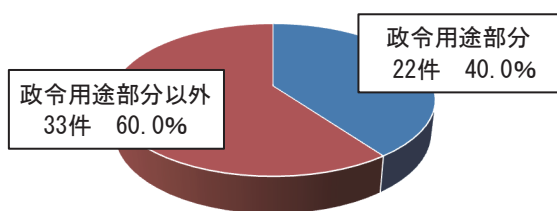


図 6-2-1 用途別出火場所

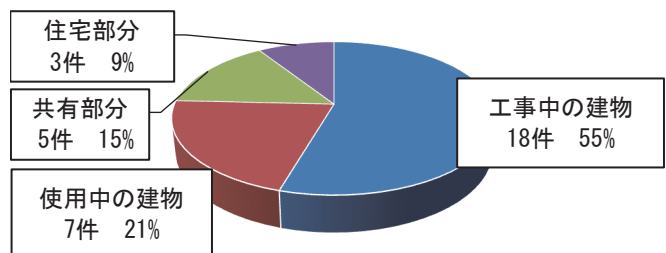


図 6-2-2 政令用途以外の内訳

(2) 出火原因

主な出火原因と作業区分について見たものが、表 6-2-4 です。

ア 主な出火原因

表 6-2-4 主な出火原因別と作業区分

出火原因	作業区分											
	合計	溶接・溶断作業	電気作業	配管作業	壁張り作業	床張り作業	の溶解作業	アスファルト等の掘削作業	塗装作業	焼却作用	その他	火災と作業との関係なし
合計	102	34	16	6	4	2	2	2	2	18	16	
溶接関係	小計	29	29	-	-	-	-	-	-	-	-	
	アセチレンガス切断器	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電気溶接器	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガス切断器	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
	ガス溶接器	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
電気設備機器	小計	29	-	15	1	2	-	-	-	-	6	5
	屋内線*	9	-	5	-	-	-	-	-	-	3	1
	引込線	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
	分電盤	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
	屋外線	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	配線用遮断器	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	コンセンクト	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	積算電力計	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	投光器	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	LED	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	充電式電池	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	配線用変圧器	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	電磁開閉器	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
工事機器関係	小計	22	4	1	3	1	2	1	-	2	7	1
	研磨機（グラインダ含む）	9	4	-	-	-	-	-	-	-	4	1
	ボタンガストーチバーナ*	4	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-
	投入湯沸器	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-
放たその不	ガスバーナ	2	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
	発電機	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	熱風機（ホットガン）	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	電気のこぎり	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	溶解がま	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
放た	火	6	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
その	ば	4	-	-	-	-	-	-	-	1	3	
その	の	10	1	-	2	1	-	1	2	-	2	1
不	明	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-

- 溶接・溶断作業が 34 件で最も多く前年と比べ 2 件増加。また、作業に関係しない 16 件を除く作業区分中 86 件のおよそ 4 割（39.5%）を占める。
- 溶接・溶断作業ではアセチレンガス切断器が 20 件で 6 割近く（58.8%）を占める。

イ 作業区分別発生状況

最近5年間の作業区分別火災状況をみたものが表6-2-5です。

表 6-2-5 作業区分別発生状況（最近5年間）

年別	合計	作業区別										
		溶断作業	溶接	電気作業	配管作業	壁張り作業	床張り	塗装作業	等の溶解作業	アスファルト	掘削作業	その他
27年	92	30		9	1	5	5		3	5	16	18
28年	82	26		12	2	9	4		2	1	4	22
29年	98	52		16	2	-	1		2	1	6	18
30年	96	32		12	1	5	7		-	-	11	28
元年	102	34		16	6	4	2		2	2	20	16

ウ 溶接・溶断作業

溶接・溶断作業の火災で火花や溶融片が飛散、落下することによって発生した火災28件のうち着火物をみたものが表6-2-6、着火物までの飛散距離をみたものが表6-2-7です。

表 6-2-6 溶接・溶断器の着火物

着火物	件数
合計	28
野積み 木切れ・廃材	7
合成樹脂 合成樹脂製品等	6
引火物類 灯油・引火性塗料等	4
可燃性固体 断熱材・防音材	4
繊維類 繊維製品等	3
その他	4

注 その他は「くず類」などです。

表 6-2-7 着火物までの飛散距離

飛散距離	件数
合計	28
50 cm 未満	3
50 cm 以上 1 m 未満	2
1 m 以上 2 m 未満	10
2 m 以上 5 m 未満	6
5 m 以上	7

エ 作業関係以外の出火原因

放火の出火箇所と着火物をみたものが表6-2-8です。

表 6-2-8 放火の出火箇所と着火物の状況

出火箇所	着火物						
	合計	1ダ ン ボ ル	製 織 品 維	建 具	固 可 燃 性 体	く ご ず み	く ず 類
合計	6	1	1	1	1	1	1
建物 工事中の建物	5	1	-	1	1	1	1
建物以外 敷地内	1	-	1	-	-	-	-

○ 放火の時間帯は、出火時間不明2件を除く4件すべてが18時台から翌早朝の6時台の工事現場が無人となる時間帯で発生。

3 着衣着火

○ 建物火災のうちの 64 件（98.5%）がぼや火災。令和元年は 3 人の死者が発生し、死者の発生率は 1 割を下回り、前年と比べると 3.3 ポイント減少しました。

(1) 火災状況

着衣着火火災とは、何らかの火源により人の意志に反して、身につけている衣類に着火した火災をいいます。例えば、調理中のガステーブルの火や灯明*の火が衣服の袖口に着火するなどの火災が該当します。

着衣着火火災の年別火災状況をみたものが表 6-3-1 です。

表 6-3-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年別	火災の種類別										損害状況					死者発生率 (%)
	合計	建物					車	船	その他	焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者	負傷者		
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	両	舶								
22年	55	43	-	-	-	43	1	-	11	-	-	2,994	3	58	5.5	
23年	81	67	1	-	-	66	1	-	13	85	-	7,439	6	83	7.4	
24年	85	76	1	1	2	72	-	-	9	117	132	11,213	4	81	4.7	
25年	71	62	-	1	3	58	-	1	8	63	11	8,286	8	65	11.3	
26年	79	69	-	-	3	66	-	-	10	39	13	4,630	8	72	10.1	
27年	66	60	1	-	3	56	-	-	6	147	3	5,542	7	64	10.6	
28年	65	59	-	-	1	58	1	-	5	-	1	575	7	66	10.8	
29年	56	52	1	1	2	48	-	-	4	83	57	13,011	4	54	7.1	
30年	52	47	-	1	2	44	-	-	5	38	7	40,660	4	47	7.7	
元年	68	65	-	-	1	64	-	-	3	10	40	640	3	62	4.4	

(2) 出火原因

主な出火原因と死傷時の状態別をみたものが表 6-3-2 です。

表 6-3-2 主な出火原因と死傷時の状態別状況

区分	合計	主な出火原因										死傷時の状態							
		ガステーブル等	電気ストーブ	ロウソク	溶接器	花火	大型ガスこんろ	ライター	電気こんろ	たき火	その他	家事従事中	作業中	休憩中	初期消火中	採暖中	就寝中	火遊び中	その他・不明
火災件数	68	43	5	3	2	2	1	1	1	1	9	中	中	中	中	中	中	中	不明
死者(人)	3	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1
負傷者(人)	62	42	2	3	3	2	1	1	-	1	7	36	11	4	2	2	1	1	5

(3) 火災による死傷者

着衣着火火災の死傷者 65 人を受傷程度別でみたものが表 6-3-3 です。

表 6-3-3 程度別受傷状況

区 分	合 計	死 亡	重 篤	重 症	中 等 症	軽 症
合 計	65	3	1	13	20	28
高 齢 者 以 外	33	-	1	4	7	21
高 齢 者	32	3	-	9	13	7
高齢者の占める割合(%)	49.2	100.0	0.0	69.2	65.0	25.0

- 主な出火原因別の上位 2 位をみると、ガステーブル等が 43 件 (63.2%) と最も多く、次いで電気ストーブが 5 件 (7.4%)。
- 死傷者のうち高齢者の数は、死者が 3 人 (100.0%)、負傷者が 29 人 (46.8%)。

4 防災物品等

- 防災処理のある防災物品等の建物火災 11 件のうち 9 件 (81.8%) がぼや火災に止まっています。

高層建築物や地下街、旅館・ホテル・病院など不特定多数の人が出入りする施設で使用されるカーテン、じゅうたん等や工事現場に掛けられている工事用シート、劇場等で使用される舞台幕等では消防法に定められ防災性能基準の基準を満たした「防災物品」の使用が義務付けられています。また、消防法に規定する防災対象物品以外の衣類、寝具類などの繊維製品について、火災予防に有効でその使用が推奨されるものとして、公益財団法人日本防災協会が独自の製品認定制度により、一定基準以上の防災性能を有するものを「防災製品」として認定しています。ここでは、「防災物品」と「防災製品」を併せ「防災物品等」として関連した火災状況をみていきます。

(1) 火災状況

防災物品等が初期の燃焼と関係し焼損した火災の年別火災状況をみたものが表 6-4-1 です。

表 6-4-1 年別火災状況（最近 10 年間）

年 別	合 計	防 災 処 理 あ り									防 災 処 理 な し								
		火 災 種 別					損 害 状 況				火 災 件 数					損 害 状 況			
		建 小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者	建 小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	焼 損 床 面 積 (m^2)	焼 損 表 面 積 (m^2)	死 者	負 傷 者
22 年	8	4	-	-	-	4	-	-	-	1	4	-	-	2	2	34	79	-	4
23 年	5	4	-	-	4	3	-	9	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
24 年	12	9	-	-	-	9	-	-	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-
25 年	10	7	-	-	1	6	-	8	-	-	3	-	1	-	2	171	3	-	1
26 年	13	10	-	1	-	9	656	369	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-
27 年	3	3	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
28 年	9	7	-	-	-	7	-	-	-	4	2	-	-	1	1	-	5	-	-
29 年	12	8	-	-	2	6	18	18	1	1	4	-	-	1	3	10	5	1	-
30 年	10	6	-	-	-	6	-	-	1	1	4	-	-	2	2	47	66	-	-
元年	14	11	-	-	2	9	10	30	-	1	3	-	-	-	3	-	-	-	4

(2) 出火原因

最近 5 年間の焼損程度別と防災物品等別についてみたものが表 6-4-2 です。

表 6-4-2 火災程度別と防災物品等別の状況（最近5年間）

程 度	合 計	カ じ ゅう たん ・ カー ペ ット	カ ー テ ン	工 事 用 シ ー ト	敷 物 類 （ じ ゅう たん ・ カー ペ ット 除 く）	幕	ど ん 帳	そ の 他
合 計	35	13	9	2	2	2	1	6
部 分 焼	4	-	2	-	-	-	-	2
ぼ や	31	13	7	2	2	2	1	4

(3) 用途別

最近5年間の建物用途別と防災物品等についてみたものが表6-4-3です。

表 6-4-3 建物用途別と防災物品等別状況

用 途	合 計	カ じ ゅう たん ・ カー ペ ット	カ ー テ ン	工 事 用 シ ー ト	敷 物 類 （ じ ゅう たん ・ カー ペ ット 除 く）	幕	ど ん 帳	そ の 他
合 計	35	13	9	2	2	2	1	6
5 項 イ（ホテル等）	10	3	3	-	1	-	-	3
15 項（事務所等）	7	5	2	-	-	-	-	-
3 項 ロ（飲食店）	4	2	-	-	-	-	-	2
7 項（学校等）	2	-	-	-	-	1	1	-
6 項 イ（病院等）	2	1	1	-	-	-	-	-
4 項（物販等）	1	-	1	-	-	-	-	-
6 項 ハ（有料老人ホーム等）	1	-	-	-	1	-	-	-
12 項 ロ（テレビスタジオ）	1	-	-	-	-	1	-	-
共 用 部 分 （ 機 械 室 ）	4	1	1	1	-	-	-	1
工 事 中 建 物	1	-	-	1	-	-	-	-
使 用 中 建 物 の 空 室 部 分	1	1	-	-	-	-	-	-
複 合 用 途 の 住 宅 部 分	1	-	1	-	-	-	-	-

- 防災物品等別で見ると、じゅうたん・カーペットが13件（37.1%）で最も多く、次いでカーテンが9件（25.7%）。
- 最近5年間の建物用途別をみると、5項イ（ホテル等）で10件（28.6%）、次いで15項（事務所等）が7件（20.0%）。